

問 産後ケア事業のショートステイやデイケアについて、初回を無料にし、産婦が一度休息できるようなにならないか。無料体験を行うことで次の利用につながるのではないか。

答 まずは住民税非課税世帯の方から考えており、徐々に負担軽減を検討していきます。

農福連携推進事業費補助金について

問 農福連携推進事業の内容は。

答 1つ目は、農福連携に関する研修費用やアドバイザーの派遣費用に係る経費の助成で、1団体当たり上限額5万円の4団体を見込み、合計20万円、2つ目は、農業を行う就労支援施設や福祉事業所が農作物を生産するにあたっての栽培に関する技術アドバイザーの派遣または農業資材の購入経費に対する助成で、1団体当たり上限額20万円の2団体を見込んでおり、合計60万円です。現在のところ農福連携の取組は少ないので、しっかりと推進していきます。



古賀政男顕彰会運営費等補助金について

問 古賀政男顕彰会への補助金について、昨年度と比較し、200万円増額している理由は。

答 市制70周年記念事業に位置づけ、有名ゲストなど、例年より華やかな大川音楽祭を開催するため、増額をお願いしています。

意見 大川音楽祭の内容がマンネリ化している部分もある。大川市民の出場枠を別枠で設けるなど、運営方法も含めて検討していただきたい。

答 大川音楽祭の内容がマンネリ化している部分もある。大川市民の出場枠を別枠で設けるなど、運営方法も含めて検討していただきたい。

公園工事費について

問 公園工事の内容は。

答 筑後川総合運動公園に設置しているトイレ5か所のうち、3か所の整備を終えているため、残り2か所について建設工事を行うものです。

問 2か所の設置工事で3千500万円なのか。

答 筑後川総合運動公園のトイレ2か所の建設工事は3千200万円、残り300万円は、各公園の危険箇所の整備等に充てる費用です。

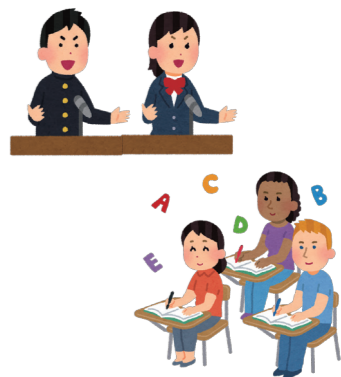
社会教育費について

問 市内にミャンマーからの留学生など来日している外国人がいるため、交流を通して地域の方や子どもたちが国際的な感覚を身近に感じられるようにできないか。

答 近年、国際医療福祉大学において行われている留学生日本語スピーチコンテストでは、ミャンマーの学生と日本の学生がペアになって、取材や原稿作り、発表の練習を行っています。留学生は日本語がとて上手で、内容も素晴らしい。また、校種間連携事業において、留学生と学校や大学で交流を行った小学6年生の児童もいます。本市の子どもたちにとって、留学生がスピーチをする姿を見ること、留学生と会話することは非常に意義があるため、来年度は見学を実現したいと思っています。スピーチコンテストだけでなく、様々なことで国際交流を図っていただきたいと考えています。

意見 「大川の駅」やこれからのインテリア産業において、インバウンドは重要視しないといけないため、市内の留学生などとの交流を活用していただきたい。

研修施設管理運営費について



問 ふれあいの家の炊事場における調理機材の見直しは。

答 現在備えているIH調理器等では、大人数の研修に対応できないことが課題であり、今後も食事の提供や調理設備に関し、何らかの方法を検討していきます。

意見 研修施設として、できるだけ利用しやすいようお願いしたい。

市税について

問 市たばこ税が、1千200万円以上の前年度比増額となっている理由は。

答 3年度にたばこ税が1本あたり1円増税されたことにより、6年度は約2億7千800万円の歳入予算額を見込んでいます。

総括意見・要望

○6年度予算の全ては市民の笑顔のためにあり、最高責任者である市長は健全な予算執行に努められたい。また、今できることをしっかりと行う覚悟を感じた今回の予算が、市民及び未来の本市のために活用されることを信じている。怪文書に関しては、事実と異なる印象操作を行うものであり、行政はしっかりとチェックを行い、事実をはっきり伝えていただきたい。

○6年度予算において、最も心配なのは市税の減収であり、背景には、基幹産業である木工業の厳しい状況がある。このような中、「大川の駅」事業の予算執行にあたり、もう少し市民に丁寧の説明する努力が必要ではないかとの思いがある。



○市長が言われる「垣根を越えて成長する」とは、市役所の部署間とはもとより、いろいろなところで垣根を越えた活動として、とても大切であり、市長の思いが随所に感じられた。今後、限られた予算で充実した成果を上げるためには、行政職員の工夫、行動が伴う部分であり、議会はこれを注視していくと同時に、職員とともに考え、市政に役立てていきたい。

○6年度予算は、市長の「垣根を越えて成長する」という思いを随所に感じることができた。「大川の駅」も官民が一体となって作り上げ、素晴らしいものができることを心よりお願い申し上げる。官と民が一緒になって、「大川の駅」だけではなく本市全体でいろいろなことに取り組み、市民を巻き込んで一緒に素晴らしい市を作り上げていただきたい。今回の予算は素晴らしいものができると思う。

○本市を今後運営していく上で賑わいを取り戻すことが必要である。その一手段が「大川の駅」事業の推進である。市全体にも活気が生まれ、そこで広がっていく経済効果は計り知れない。9年度開業に向け肅々と事業を進めていただきたい。また、官民一体となって作り上げ、素晴らしいものができることを心より願っている。重層的支援体制整備事業については、事業の成功は職員一人一人の肩にかかっており、市民の相談事をしっかりと受け止め、市民に安心感を与える場になることを期待している。

○政治は長期、中期、短期的に考えなければならぬものであり、倉重市長は将来についてしっかりと考えている。市長の政策をしっかりと支えていくことが、将来を担う子や孫たちのために役に立つ、今こそそういうときである。皆様から頂いた貴重な寄附金は、本市の将来のために使うものであり、誤った情報を打ち消すためにも、職員はいろいろな形で情報を広めていただきたい。

大川市議会議会改革調査特別委員会

付託された案件は提案どおり可決されました

大川市議会議員定数条例の一部改正

5年10月の大川市特別職報酬等審議会の答申の中に、議員のなり手不足や高齢化、投票率低下の問題等の諸課題を抱える中、毎年5百人程度減少している本市の人口推移の現状を踏まえた上で、議員定数の適正化の取組を附帯意見として最大限尊重するように求められています。また、議員報酬の改定時期についても考慮した上で審査を進めた結果、議員の定数について、14議席から12議席への削減を提案するものです。

委員会では、5年6月の設置時よりほぼ毎月、計10回の議論、審査を重ねてきたことから、特段の質疑や意見等もなく、採決において、賛成6名、反対5名の結果となり、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。